

表彰台に2人！ ウエイトリフティング選抜大会

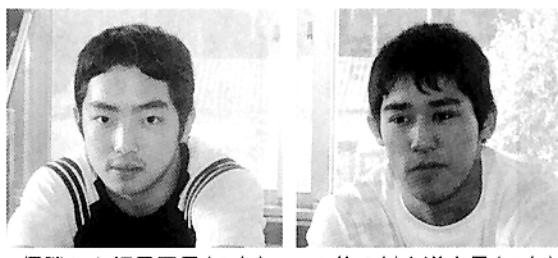
3月25日に行われたウエイトリフティング選抜大会53kg級で、3年の坂元司君（小林中出身）がジャーラーク108kg、スナッチ91kg、トータル199kgで堂々の優勝に輝いた。また、2年生ながらも村上道人君（小林中）

出身）もジャーラーク96kg、スナッチ90kg、トータル186kgで3位に食い込み、小林高校の2人が表彰台に立つという快挙を成し遂げた。

顧問の水迫勇先生によれば、小・中学校時代からバレーボールをやっていたという坂元君は体の使い方が上手で、バーベルの下に潜り込む技術がウエイトリフティングでも活かされているそ

うだ。また、冷静で決して無理をしない坂元君は故障が少ない優れた選手で、3冠（選手権大会、高校総体、国体）に最も近い選手だと信頼しておられた。

また、中学時代に陸上



優勝した坂元司君（3年） 3位の村上道人君（2年）

よっこ 先輩！ 安田昌弘さん、母校で授業！



1月29日に「宮崎に帰ってきたので、今から小林高校へ行きたい」という電話があつて5分もせずに安田昌弘さん（高14回卒）が来校された。

安田昌弘さんは、同窓会

物理・大脇雅信先生から「6時間目に2年生の理系クラスの授業があるのだが、生徒に何か話をしてくれんな」と頼まれたと、すぐOKされ、10分もしない内に

安田さんは、主に南極大陸で第19次南極

にも執筆されたので、記憶しておられる方も多いのではないかと思う。

安田さんは、同級生の

星山美緒（後川内中）

が書かれた作品で「絵

くに書かれた作品で「絵



長で経営手腕を發揮。ブ
下関支社長、阿倍野支社
の成績が着実に伸びたと
いう。小林高校出身とい
うのも當業で助かったと
語る。「當業で苦労して
ばかりの人で、人の隙間
を探しながら走っている
感じでした。

それでも、途中小林高
校O.Bの方達の応援を頂
があり、11時50分、石
川登りを始めた。体力に
山登りを始めた。体力に
2年生になつたらすぐに
を希望していたが、先ず
体力をつけようと思い、
2年生になつたらすぐに
山登りを始めた。体力に
1800人がエント
リしました。

小林高校同窓会だより



『原点は高校時代に味わった弱者の気持ち』

永迫博司さん（昭和33年・高10回卒）

41回目を迎える青梅マ
ラソン大会が、去る2月
4日（日）に行なわれました。
コースは青梅街道を折
返す起伏のある、気候条
件も東京にしては比較的
厳しいコースですが、当
日は穏やかな好天に恵ま
れ1800人がエント
リしました。

私の走った30kmの部は
約13500人の参加申
込があり、11時50分、石
川登りを始めた。体力に
山登りを始めた。体力に
1800人がエント
リしました。



青梅マラソン参加記

舞田藤雄（昭和32年・高9回卒）

原慎太郎都知事の号砲で
スタートしました。ス
タート台上には往年の
名ランナー瀬古SB元監
督の顔も見られました。

スタートして行く選手
位まではコースは溢れん

桜萩会だより

第49号

関東地区同窓会
(発行責任者) 治
窪 事務局秀
丸〒108-0074
港区高輪2-1-11-421
☎03-3280-1378

ばかりの人で、人の隙間
を探しながら走っている
感じでした。

それでも、途中小林高
校O.Bの方達の応援を頂
があり、11時50分、石
川登りを始めた。体力に
山登りを始めた。体力に
1800人がエント
リしました。

には、沿道の商店街のス
ピーカーから「帰つて来
いよ」の曲が流れ、零細
ぎくらいまでは比較的楽
に走ったのですが、残り
5km位から足等がへばつ
てきて、何時も同じで
残り2~1kmはバテバテ
の走りになりました。距
離に関係なくどんな大会
でも最後の1~2kmは苦
しいと思います。

名門小林高校のO.Bの
皆さんには恥ずかしくて
皆さんは恥ずかしくて

と観光を兼ねてあちこち
の大会に参加して楽しめ
ればと思っています。

これからも、走ること
と観光を兼ねてあちこち
の大会に参加して楽しめ
ればと思っています。

とでも嬉しいものです。

小林高校同窓会だより

BOOKS

『三滴』

加藤民應
(旧制小林中20回卒)

きりが無い位多くの先輩達によるお陰様の「滴(しずく)」を『三滴』として本のタイトルにされたそうであるが、内容は、五十五年間の教員生活の出来事の鮮明な記録や校長として行った入学式の挨拶、全校集会での講話の内容が克明に記録されており、加藤さんの几帳面な性格を表している。

加藤さんは、これまでに、西郷隆盛など西諸に残る有名人の書道作品を解説した「墨林」(平成8年)、教え子や親子、同僚との人間関係にまつわる話などをまとめた隨筆集「縁(えにし)」(平成16年)など約20冊も発行してあられる。また、篆刻集『遊於芸』を第十集まで発行、ライワークの千種を完成された。

現在「墨遊塾」書道塾を営んでおられ、今後もびっしりと出版予定が続いている、とても忙しいと言っておられたのが印象的だった。

問い合わせ先：著者 (TEL0984-22-6156)まで。

写真左は高14回生？
右端は戸木起子さん。

た。今日は関西地区の同窓生が集う高千穂会総会・懇親会の日である。

冒頭のやり取りは丸山雅靖(高6回)さんと定延利夫(高9回・近畿小林会会長)さんの御一人。

「同窓会が出来い前は誰が誰か分からじ勝手に駅伝の応援をしちゃったよ」

「じゃつたじゃつた。

「ここだけじゃつと。(高15回)さんだ。

語る久米正雄(高4回)さんと大山次男会長(高14回)、



左から1956、57、77、02年

校卒業アルバム制作に携つて来られた林山秀幸さんには黒木親敏編集長が話を伺つた。

私が旧制小林中に入学したのは昭和15年です。当時は時代が時代（戦争）ですから度々野外演習がありました。ある時など真冬の夜中に斥候に出て朝礼は冬でも運動場で裸足。霜焼けには越中富山の黒い薬をつけて火箸でジュッと焼いて女交際も厳しくて、女学校の運動会の日に前を通つただけで一週間の謹慎になつた者もいたほどです。

入学の時に川野製靴店で父が黒皮の編み靴を作ってくれ、それで登校していました。

その後、家業を継ぐ様に命ぜられ従いました。ところが約十年後、父が死亡し仏壇を整理していたら、当時の合格通知が通出て来たんです。跡を継がせたために親父が隠したんですね。それからは小林高校より兄を熊本医

院へ送りました。その中で思う事は、今の高校生はおとなしくて真面目だ、という点です。

昔いたパンカラなどは全

くありません。アルバムの場合は、授業風景の撮影に教室に入る事があります。

すると教室の戸を開けても一人も振り向きません。

感心する位い勉強に集中しています。またスポーツをする子が増え体格もすばらしい。

撮影の時は、昔は不動の直立姿勢でしたが今はVサインです。また昔は先生をいじめる子もいましたが今は見ません。キ

チンと挨拶する子が増えましたね。礼儀正しいで

すね。知れつ！とする子

は稀です。先生方の生活指導がきちっとされてい

ると感じます。

丁度、新体育館の建設時

期で、体力増強・鍛練の

器具、舞台装置、段通、

カーテン等PTAでいた

しました。特に電動のメ

タルカーテンは頑固に主

張しました。福岡の日本

毛織KKにお願いしに行

つたら支店長が「あたい

も小林じや！」と全て元

値で提供していただいた。

その後、運動場（グラ

ウンド）拡張の為、県の

各機関に数回陳情致しま

した。当時、小林高校は

勉学に体育にと大変注目

されました。旧制中学の先輩

であつた当時の県会議員

様のご努力には感謝して

います。

学生諸君の生活記録に奉

仕しようと決めました。

現在79才ですが、体の

続く限り子供達が喜んでくれる様に精進したいで

すね。

卒業アルバムは想い出の扇（とびら）。一枚の写真、一人の級友の顔から次々と連なつて浮かび上がつてくる想い出。今

回は、60年にわたつて本

校卒業アルバム制作に携つて来られた林山秀幸

さんには黒木親敏編集長が話を伺つた。

私が旧制小林中に入学

したのは昭和15年です。

当時は時代が時代（戦争）

でした。ある時など

真冬の夜中に斥候に出て

はまつて散々な目に遭いました。朝礼は冬でも運

動場で裸足。霜焼けには

越中富山の黒い薬をつけ

て火箸でジュッと焼いて

女交際も厳しくて、女学

校の運動会の日に前を

通つただけで一週間の謹

慎になつた者もいたほど

です。

入学の時に川野製靴店

で父が黒皮の編み靴を作

つてくれ、それで登校

していました。

入学の